

◎ 連合会だより

長崎・雲仙で連合会第17回総会が開催されました。新しい運動・組織の創造と仕事おこしの新段階・時代の要請にこたえ、地域とともにある労働者協同組合の任務とは何か、ということが全体のテーマでありました。

登録組合員制度、社会連帯委員会、協同事業連合、社会経済連合、そして生活総合産業など、新しい言葉が飛び交い、熱意あふれる総会でした。

大分自交総連から3名の方々が参加されましたが、8年前の大分・別府での9回総会の議案を基に、労働者協同組合の言っていることに嘘はないと討議をされて参加されたそうです。

今回の新しい提起が、何年か後に組合員自身の手で豊かな事実として花開いて欲しい。その中で、大分の竹田、岡山など小さいけど地道に頑張りを続けている事業団が、高齢者協同組合への展望をつかみ発展しつづける道も見えて来ると思います。

◎ センター事業団だより

長崎雲仙の地における総会・総代会は、何やら表現しがたい雰囲気の中で幕を閉じた。表現しがたいとは、より大きな可能性が見通せるという意識の高揚と、組合員・事業所の置かれている位置や現実が、意識も含めこの可能性としっかりつながり切っていないというジレンマだろうか。前号で書いた理想と現実のギャップとプランニングへの参加の問題が、いよいよ焦眉の課題として登場してきたと思える。とは言っても、一つ一つの活動を見てみると非常に元気で活発であり、この輪が広がっているが故の、まとめる難しさというか、更に半歩先の提起の難しさを突きつけられているようでもある。それだけ全体が課題や問題を真剣に考え、真剣に労協の事業・運動・組織を理解し作り上げようと言う意欲が高まっているという事だろう。この事は時として現状に対する批判が強くなり、批判自身が目的となって、本来の目標を見失いがちになる。その舵取りと具体的な半歩先の目標、それと大きな目標のつながり

総会には、来賓の方々、そして多くのメッセージが寄せられましたが、イタリアのANCP Lのマウリッツィオ・ジャッキからのメッセージの人間性あふれる内容に目頭を思わず熱くしてしまいました。大量失業の大波を実感し奮闘しているイタリアの協同組合との連帯は、日本の労働者協同組合に更に大きな未来をプレゼントしてくれると思います。更に全米退職者協会の実践は、高齢者協同組合の事業運動に決定的なヒントを与えることでしょう。

これまでの運動の蓄積の上に大バケ、大爆発の胸さわぎを実感したのは私だけではないと思います。総会后、足早に始まる基本政策・戦略会議は総会の穴を補い第2次中期計画の2年度の実践計画をたてる場として大きな意味をもって来よう。体に気をつけて頑張ります。

鍛谷 宗孝 (労協連合会・専務理事)

をしっかり描きながら、現状の改革を進めねばならない。改めて協同組合の難しさや労協という組織のあり方の難しさが身にしみる。しかし、この苦しみや悩みを逃げずに克服する中で、本物に又一步近づくのだろう。挑戦しているには一人ではない。多くの仲間の組合員・全国の事業所が共に挑戦し、問題意識を共有し、具体的な解決を図っていかねば、本質は強まっていかないだろう。

我々の新しい文化の創造は、一面では過去との決別や否定をも含んで進むのだろう。従来のあり方・手法を、まず役員が先頭になって自らの課題としてつくり変える陣痛の時期が今なのだろう。これと共に、事業所・事務局員・所長とは何なのかが、実践の中で明らかにされていく年に是非していきたい。そして、この組織の活力をどう高めるのか、何が今の弊害になっているのかを考え合う年としたい。「自省なき人生は生きるに値しない」という言葉を、全て。

古村 伸宏 (労協センター事業団・事務局長)